



12月の園だより

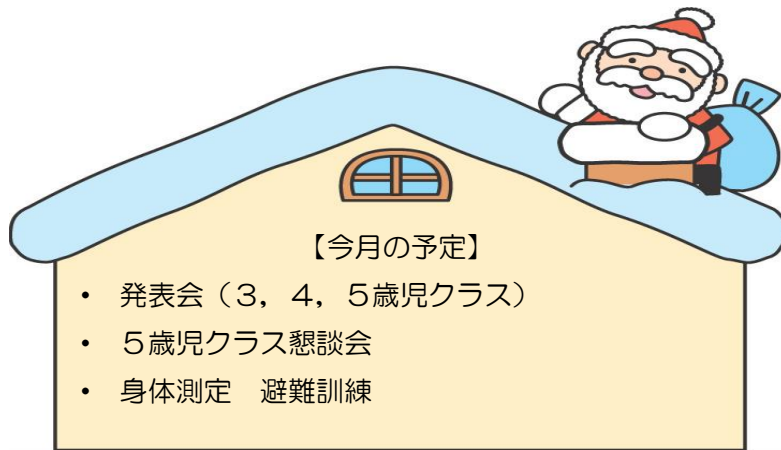
令和4年12月1日
目黒区立中央町保育園園長

～今年もありがとうございました～

朝、夕と寒暖差が感じられるようになり「おはようございます」と登園する子どもたちの吐息の白さにも冬の訪れを感じさせています。この時期、朝早い保育室からは楽しそうな子どもたちの歌声がよく聞こえてきます。「何かな」と小さなクラスの子もたちが足を止めて見たくなるほどです。一人が歌うと隣の友達も自然と口ずさみ、気付くと大合唱になっていて歌で人と繋がる楽しさを感じさせてくれます。

ある日の5歳児クラスの日誌には劇遊びを通した子どもたちのやりとりが書かれていました。一人の子がとてもいきいきと自分のセリフを言っていたので、理由を聞くと「お父さん、お母さんがいるつもりで頑張ってた」と話したそうです。その言葉をクラス全員で共有すると、一人ひとりが「私は、この動きを気を付ける」「この音の出し方を考えてみる」など自分自身を振り返り、変えようとする姿が増えていきました。恥ずかしさから役になりきることが思うように表現できなかった子が「僕、今日は起き上がって宝箱を渡すところを早く動くようにした」と誇らしげに教えてくれたエピソードからも、相手が変わることを求めるのではなく、自分自身を変えていくことが他者にも影響を与えていくのだと改めて感じました。子どもたちが自分で変わろうとする環境をこれからも大切にしていきたいと思います。

今年は、感染症対策も緩和されて多くの行事を無事に終えることができました。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げます。ご家族で健康に新年をお迎えください。



🌸🌀🍁🌳 自然物を使った作品を紹介します。 🌀🍁🌳🌸



たけのご組（1歳児クラス）

先月作った作品に、緑地公園で子どもたちと拾ってきた落ち葉を貼り秋の深まりを表現しました。子どもたちは、落ち葉のカサカサした手触りを感じたり、パラパラと細かくしてみたり感触を味わっていました。



もみじ組（3歳児クラス）

クラスで栽培し収穫したさつま芋のツルでリースを作りました。保育士が巻いていると子どもたちも「やりたい」と自分たちでも挑戦していました。リボンは好きな色を選んで自分で巻いてみました。



自然物を使った遊びの様子



どんぐり組（2歳児クラス）

公園につくと「うわ～葉っぱがいっぱい」とワクワクした表情を浮かべる子どもたちです。「よく見るといろいろな色があるね」と保育士がつぶやくと「こっちは黄色」「あ、赤もあったー」と木々や落ち葉を指さして色探しが始まります。実際に手に取ると「この葉っぱ黄色と緑が混ざってる」と紅葉のグラデーションに気づき、一枚一枚見比べて大切に拾い集める姿もありました。色とりどりの葉は「いらっしゃいませーどれにしますか」とお店の品物となり、茶色の葉は食材となって「お肉が焼けました」「あ、焦げちゃったー」と友達と笑い合いながら料理が始まります。大きな落ち葉を見つけた子は「おばけだぞー」とお面にしながら、保育士や友達と追いかけて遊んでいます。落ち葉一つにしても色や形、大きさの違いがあり“これは〇〇みたい”“こうしたら楽しそう”と様々なことを感じ、考えて遊んでいます。一人ひとりの気づきやワクワクする気持ちを一緒に感じ、楽しい経験を重ねていきたいと思っています。



いちよう組（4歳児クラス）

油面公園の梅園は、子どもたちの好きな虫や自然物に出会えます。先日行った際、一人の子が落ち葉を見て「焼き芋大会しよう」と沢山の落ち葉を集めて山にし始めました。それを聞いていた子が「じゃあ、ぼくは火が付くように枝を集めてくる」と枝探しに出かけていきます。さらにその二人を見ていた子が「これ、お芋みたいじゃない」と石を持ってくると「いいねー」と3人の焼き芋会が始まりました。時々枝で石をつつきながら「焦げてないかな」と言ったり、新しい石を見つけると「ぼくらさんみたいに入れてみよう」と投げ入れたりしています。まわり子どもたちも「良い匂い」と参加し、あっという間に遊びが広がっていきました。この数日前に園での焼き芋会を経験した子どもたちは、イメージ豊かに再現しながら自然との関わりや友達との関わりを楽しんでいます。様々な素材を取り入れながら、友達と一緒に同じ楽しさを感じられるようにしていきます。

